

農業に生きる

Challenge to
My Dreams



生後8カ月のお子さんが仕事の原動力に



最盛期を迎え収穫に励む石井さん

タマネギ生産者

いしい たかし
石井 隆 さん(43)

沼津市大平在住。タマネギを6アール、水稻を2.6ヘクタール栽培。なんすん玉葱部会となんすん耕種部会に所属。

仲間と共に歩む農業人生

家族の後押しで就農

沼津市でタマネギと米を栽培する石井さんは、幼い頃から高校まで親戚の農業を手伝っていました。高校卒業後には、父・茂さんが立ち上げたシート製造業の会社に入社しました。そんな中、数年前に親戚が農業を引退。「寂しい気持ちはあったが、本業をおろそかにできず、その時は就農する覚悟がなかった」と話す石井さん。背中を押したのは茂さんからの「やってみるか」の一言でした。

石井さんにとって農業の先生は大平地区の先輩生産者で、日頃から作業の様子を気にかけてくれます。「就農当初から仲間として見てもらったのがうれしかった。先輩や仲間が本当に好きで、感謝しかない」と笑顔を見せます。

大切な仲間と家族の存在

先輩生産者に誘われ、4年前からなんすん玉葱部会に所属し、タマネギの栽培を開始。同部会は、長期間天日干しを行い、腐りにくく品質の良いタマネギを出荷しています。石井さんは部会の栽培基準を守り、品質保持に努めている。分からないこともすぐに教えてもらえる良い環境にある」と話します。また、製造業で培った溶接技術を仲間の農機修理にも役立てています。

これからは自分が仲間を助ける

昨年、父親になった石井さんは「多くの人においしいと言ってもらえる作物を栽培し、子どもに父親の仕事誇りに思ってもらえるよう頑張りたい」と話します。

「先輩生産者の方が積極的に頑張っている姿を見ると、自分も頑張らなければと気が引き締まる。今後は若手の立場として産地をけん引できるよう励みたい」と熱く語りました。



タマネギ

なんすん玉葱部会は、沼津市大平地区、清水町、長泉町、裾野市の生産者で構成。同部会のタマネギは大玉で身の締まりが良く、生食でも甘みが強いのが特長です。

長期間天日干しを行い、しっかり乾燥させることで、腐りにくく長持ちするため、品質の良いタマネギに仕上がります。

「農業は自分で決断することが多いが、孤独感なく楽しく続けられるように努めています。」



営農アドバイザー(左)と生育状況を確認

営農アドバイザーから

なんすん営農経済センター 地区購買課

なかむら よしあき
中村 善昭

石井さんが玉葱部会に所属したのと同時に、私も初めて同部会の担当になり、1年目は互いに試行錯誤しながらタマネギを栽培しました。3年が経ち、石井さんが新規部会員にアドバイスしている姿を見て、とても頼もしく思います。

品目別振興計画を基に各地区と連携し、ふじ伊豆管内でのタマネギの生産を広めていけるよう、栽培から販売まで生産者に寄り添ったサポートに努めます。

